



左写真のように吹付け仕上をする前に下地段階で腕木を仕込んでいる。そこに小穴をついて、ダボと接着剤で留めている。現実には、外壁下地面には当然凹凸がある為、腕木面をピッタリと面一に合わせるには気の遠くなるような作業である。根気の要る仕事である。

こうする事により、壁面より縦格子が浮き出た分、陰影が深くなり、次の完成後の外観写真のとおり、見る者に強い印象を与える。





西船の家

東南側見上げ

究極のディテール - 横桟なしの縦格子



下小屋での仕込み

縁甲板・格子ともに腐朽に強い米ヒバ材を加工したものである。
防腐処理剤を塗布した後、色づけの仕上げをしている。



西船の家



バルコニー縁甲板の納まり

隅部の鋭角は、佐川棟梁が鉋で感覚的に削り付けていったものであるが、その仕事ぶりを見ていた私は感動と共に改めて棟梁に敬意を表した。

貼り終えた後も、塗装屋さんが丁寧に最後の仕上げを施している。



西船の家

究極のディテール - 横棧なしの堅格子